香教連

香川県教職員連盟機関誌
発行所：香川県教職員連盟
発行者：北村　顕吾

〒760-0004
高松市西宝町２丁目６番４０号
香川県教育会館６０２号

TEL (087) 835-2721
FAX (087) 835-2723

毎月10日発行　定価１部50円
（年間1,000円　送料とも）
会員の購読費は会費の中に含む

香教連は、結成四十七年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力をもつ、県内最大の教職員団体です。

# 令和四年度採用試験対策部研修会のお知らせ

令和四年度採用試験対策部研修会を、左記の内容で開催を予定しています。令和四年度も香川大学の先生方を講師としてお招きし、一次試験・二次試験対策について講義を行っていただく予定です。詳細につきましては、毎月の新聞に同封する案内資料、または香川県教職員連盟ＨＰ等を御覧ください。なお、今後の状況により新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催の中止や変更、人数制限等となる場合がございます。御理解、御容赦の程、よろしくお願い申し上げます。

○第一回
・日　時：令和四年四月三十日（土）
九時三十分～十二時
・場　所：香川県教育会館二階会議室
・内　容：講義・時事通信社模試（心構え等）

○第二回
・日　時：令和四年五月二十八日（土）
九時三十分～十二時
・場　所：香川県教育会館二階会議室
・内　容：講義・時事通信社模試（教育法規等）

○第三回
・日　時：令和四年六月二十五日（土）
九時三十分～十二時
・場　所：香川県教育会館二階会議室
・内　容：講義・演習（集団面接等）

○第四回
・日　時：令和四年八月十一日（木・祝）
九時三十分～十二時
・場　所：香川県教育会館二階会議室
・内　容：講義（模擬授業、個人面接等）

（予定ですので、変更になる場合がございます。）

# 東京専従通信

## 「希望の春を迎えて」

全日本教職員連盟
事務局次長　村松　宏晃

皆さんにとって令和三年度はどのような一年になったでしょうか。私も全日教連の役員として東京に来てまもなく一年になりますが、国においてもこの一年間で教育をめぐる様々な動きがありました。

まず、小学校では今年度から学級編制標準の段階的な引下げが始まりました。第二学年から順に一学年ずつ引き下げられ、令和七年度には小学校全学年で三十五人学級化が完了する予定です。

また、今年度は「ＧＩＧＡスクール元年」ともいわれ、小・中学校で一人一台端末環境の下、新しい学びがスタートしました。新型コロナウイルス感染症の影響も長引く中、学校現場ではまさに今もＩＣＴの効果的な活用に向けた試行錯誤が続けられています。

そして、十一月には教員免許更新制の発展的解消の方針が示されました。今後は教員免許更新制に代わり、研修履歴の管理や対話を通じた受講の奨励等を柱とした「新たな教師の学びの姿」へと転換が図られていくこととなります。

このような動きに対し、全日教連では、中学校の三十五人学級化や学校ＩＣＴ環境の整備、教師の資質能力の向上と負担軽減を両立した研修制度の構築等、国の施策に学校現場の声を反映させるべく、香川教連をはじめとする単位団体と協力して要望活動を展開してきました。

季節は春を迎え、先生方や子供たちにとってまた新しい一年が始まろうとしています。希望と活力に満ちた学校教育環境の実現に向けて、来年度も引き続き全日教連の活動に取り組んでいきたいと思います。

## 温故知新

令和元年度から三年間、全日本教職員連盟副委員長ならびに香川県教職員連盟委員長を務めさせていただきましたが、令和四年三月三十一日をもって、退任することとなりました。在任中におきましては、先生方や様々な方々の温かい御支援・御指導があったからこそ、微力ながら何とか職責を全うすることができました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

最後は、「教師の運命を決するのは豊かな話（経験）を多く持っていること」です。

先生あるあるのひとつに、「今、先生が大事な話をしているのだから、よく聞きなさい！」等というような光景を現場で見ることはありませんか。日本の国語教師、日本の国語教育のパイオニアでもあります大村はま氏は次のように述べています。

先生のそばへ行くと、お小言とか、ためになる話とか、そういうのは聞けるかもしれませんが、何か心のそうっとあたたまるような話はあまり聞けないというような状態が多いのではないでしょうか。いわゆる「ためになる話」というと、だいたい子どもの嫌いな話が多いですね。そうじゃない豊かな話を子どもに何気なく話していく。そういうことをもう少し考えないと・・・学級や学校の空気が濁るとか言われてしまいますけれども、そういう場がないからではないでしょうか。

幸せな家庭は何かいろいろ話しているのと同じようなふんわりしたあたたかなものが、子どもには必要だと思うんです。でも、そんな話（経験）をたくさん胸に持っていない教師がいるということに、私は最近、気がつきました。

どのような話ですか、と改まって聞かれると困るけれども、子どもが何気なく気楽に聞き流しながら、何かを受け取っていくというような、つまり話の力ですね。話にはそういう、何がためになるかならないか、上手か下手か、そんなことに関係のない、話しい言葉の雰囲気というものがあるんです。

三十人なり四十人なりの子どもたちを並べて「これからお話しますから、よく聞いているんですよ。」なんていうのは、教師として本当につまらないことです。

当たり前のことですが、子どもたちは様々な分野や社会に飛躍していきます。先生方、子どもたちに学校内の限られた世界観・価値観を強いるような話だけにとどまっていませんか。少しの時間でも、子どもたちとより良くコミュニケーションをとれるようなお話をするためには、教師が学校以外の様々な世界観や価値観等にできるだけ多く触れる機会をもつまずにすむ人々の育成、さらなる職務への充実等に参考にできる一道標で在れるよう、今後も精進します。（顕）